銀漢亭日録

伊藤伊那男

2月19日(火) ▼雪ちらつく。東京は五度目の雪と。片山一行さん夫妻、三月に郷里四国へ戻るとて送別会。およそ三十名程集まる。櫂未知子さんから送別品の著作多数届く。対馬康子さん駆けつけて下さる。

20日(水) ▼「三水会」七人。発行所は「はてな句会」あと坊城、敦子さんなど店へ五人。真砂年さん、西村麒麟君夫妻と結婚祝の会の打合せ。洋酔塾四人が記念誌の打合せ。対馬、小石さん編集の帰り。あと洋酔さん他と「大金星」。

21日(木) ▼「銀漢句会」終って十八人。清人さんの「大倉句会」グループ六名参加して新風を吹き込んでくれている。

22日(金) ▼発行所、三月号発送。「金星句会」終って五人。閑散。

23日(土) ▼十一時半、桜ヶ丘CC横、仏レストラン「エル・ダンジュ」にて甥の顕輔君を偲ぶ会。チェロ四台。献杯の発声。あと兄の家に信州の親戚と。

24日(日) ▼「早蕨句会」の吟行会に誘われて、大和、禪次氏と参加。早めに家を出たものの鶴川へ行くのに町田迄乗越し、戻るのに新百合ケ丘へ乗越し。更に路線を間違えて五月台へと……。結局二十分遅れる。地元の「秋」木内宗雄氏が同行して下さる。まず石川桂郎の七畳小屋の地主だった石川洋一郎さんの家を訪ね、白洲次郎の思い出話などを聞く。七畳小屋跡を見て真光寺川沿の田などをたどり武相荘へ。一時半より、いこい会館にて三句出しの句会。二十一人。終って町田へ出て「魚屋一丁」にて親睦会。終って成城の娘の家に寄り河豚鍋で飲み直しとなる。帰路、吉祥寺迄乗越し。何ともはや……。

25日(月) ▼午前中原稿書き。店「湯島句会」。出句百五人。出席者三十人程。

26日(火) ▼伊勢神宮の河合宮司、宮澤、小学館編集者。河合さんから守口大根の土産いただく。昨日客の高部さんから対馬の一本釣の大鯛到来。捌く。眞理子、展枝さんから台湾土産のカラスミ戴く。これは極上品。私がカラスミ、カラスミと騒いだ「ごね得」か。でも全体閑散。寝過して桜上水。

27日(水) ▼全く知らずにいたのだが他結社の方が「俳句界」二月号に伊那男さんの句集のことが書かれていた、と言い、届けてくれる。「天塚」主宰、木田千女さんが『知命なほ』から十数句抽いて「私は読み終えて泣いてしまった。もう一月すれば来年がくる机の片隅で……」と書いてくれている。店「鴻」編集長、谷口摩耶さんが「新樹」主宰、勝又民樹氏と。「りいの」山崎祐子さん二人。奥「雛句会」五人。「読む会」三人。「月の匣」水内慶太主宰が加茂住職他と五人……などなど盛況。皆川文弘さんより銘酒「日高見」届く。

28日(木) ▼四月号原稿終了。武田編集長へ渡す。松山さん、郷里の後輩と。伊那の田中昇君夫妻上京とて寄ってくれる。「天為」編集部句会あと。希望で湯豆腐出す。

3月2日(土) ▼十時半、鎌倉駅。「俳句あるふぁ」六、七月号の「俳句の現場」の取材。編集者の赤田美砂緒さん、カメラマンの野澤勝さんと。吟行しながら十句作り、インタビューに答える企画。朝夷奈切通しを歩いて鎌倉に入り、光触寺、明王院、梶原景時太刀洗井戸を経て浄明寺のレストランで鎌倉ビールを飲みつつインタビューを受ける。あと、短歌の石川さんから建長寺でカルタ大会の司会をやっているので寄ってくれと言われていたので駆けつける。けんちん汁(建長寺汁)をいただく。これにて取材を終えて大船の「観音食堂」へ。野澤さんを誘う。月末の金沢八景吟行の下見に来ていた、いづみ、展枝、花穂さんとも合流し酒盛り。鳥貝、床ぶし、皮はぎ、その他うまし。茅ヶ崎の酒「天青」をずいぶん飲む。

3日(日) ▼二日酔い。やってしまった……な。九時、整体。先生を憎みたい位きつい治療。でもお陰で右肩上がるようになる。十三時、中野サンプラザ「春耕同人句会」。あと「炙谷」にて親睦会。次の店へ誘われるが心を鬼にして帰宅。寝る。

4日(月) ▼「俳句あるふぁ」への俳句、文章など。発行所「かさゝぎ」勉強会。終って十四人。中島凌雲君、四月から大阪転勤と! 松山さん奥様と。洋酔さん「洋酔塾」百回記念打合せで五人。店閉めて、洋酔一派と「大金星」。中野智子さん関西のいかなご漁解禁とて友人が煮たという、はしりを届けてくれる。

5日(火) ▼俳人協会総会あとの朝妻力、西村睦子「多摩青門」さん寄って下さる。洋酔さんも。ただし閑散。二十二時半、閉めて洋酔、清人さんと「大金星」。

6日(水) ▼「銀漢」四月号の校正。皆川丈人さん、会社時代の友人がたまたま俳句を作っていて、私を紹介して欲しいとのことにて二人で来店。即入会。発行所「きさらぎ句会」あと六人店。「宙句会」あと六人店。遅い時間に今度は皆川文弘さん来店。居合わせた堀切克洋君と、奥様が遠縁になるようにて大いに盛り上がる。

7日(木) ▼店、小野寺清人さんの兄上、仙台で弁護士の信一さん、清人さんのご子息、一平さん、遅れて信一夫人。兄上、「銀漢」を隅々まで読んでいて下さる。私の文章、特に浅間丸のエッセイを褒め下さる。発行所は「十六夜句会」。終って十人店。終って、数名で「大金星」。ぎりぎり終電まで。

8日(金) ▼結婚記念日である。「平成俳壇」の選句。発行所、最終校正、編集会議。店、麒麟君の結婚祝の会の打合せで真砂年、真一さんなど。一般のお客さんも多くまずまず。

9日(土) ▼十時、運営委員会。禪次、秋葉男さんと「咸亨酒家」で昼食。喫茶店にて作句。十三時、「銀漢本部句会」五十三人。あと「旨い屋」にて親睦会二十二人。

12日(火) ▼月末吟行会の講話用に源氏三代の系図とその末路などを表に作成。ついでに鎌倉にまつわる「銀漢」誌用エッセイも書く。店「火の会」七人。「天為」編集部。徳永さん久々。岩波OB今井さん。「月の匣」の面々。

13日(水) ▼発行所「梶の葉句会」選句。店「三水会」。加藤恵介君、東京勤務を終え高遠へ戻るとて送別会を兼ねる。〈俳諧の種蒔くための帰郷とか〉環順子さん仕事仲間と三人。骨折から回復。金井さん仕事仲間を俳句に誘い来店。松山さんも仕事仲間を俳句に誘い来店。